

町長所信表明演述

令和8年9月

平 泉 町

このたび、令和8年8月27日付けで4期目の平泉町長に就任いたしました青木幸保でございます。何卒よろしくお願い申し上げます。

本日ここに、令和8年平泉町議会定例会9月会議が開催されるにあたり、今後の町政運営に対する考え方について、私の所信の一端を申し述べさせていただきます。

先の町長選挙におきましては、多くの町民の皆さまからご信任を賜り、4期目となる町政の重責を担わせていただくこととなりました。身に余る光栄であり、深く感謝いたすとともに、心から厚く御礼申し上げます。

無投票という結果ではありましたが、白紙委任を受けたとは考えておりません。私が初当選以来掲げてまいりました「チーム平泉」の旗印のもと、これまで続けてきた「対話の行政」を今後もしっかりと継続し、さらに力強く推し進めよという町民の皆さまからの負託であると深く心に刻み、「子どもたちに夢を、若者に希望を、高齢者に安心を」の実現に向け、全身全霊、全力で取り組む所存であります。

私たちのふるさと平泉は、比類なき歴史と文化の薫る町であります。奥州藤原氏が築いた「平和と平等」の精神は、今なおこの町の隅々にまで息づき、私たちの誇りの源泉となっております。先人が残してくださったこの偉大な遺産を、ただ守るだけではなく、現代に活かし、輝かせ、そして確かな形で未来へと繋いでいくことが、今を生きる私たちに課せられた使命であると考えております。

私は先の選挙において、この町に住む誰もが「平泉に住んでいて本当に良かった」と心から思えるまちづくりに向けて、「4つの基本目標」を皆さまにお約束いたしました。

特に、本町が直面する人口減少という大きな課題を正面から受け止め、全ての施策がその対策に繋がるという強い覚悟を持ち、これからの4年間は、この公約を道しるべとし、平泉の未来を切り拓くための一步を着実に、そして力強く踏み出してまいります。

1つ目は、「平泉で豊かに暮らす」ための産業振興であります。

町の持続的な発展のためには、安定した経済基盤が不可欠であり、特に本町の基幹産業である農業と観光の高付加価値化が重要であります。

このため、農業分野では、担い手の育成や特産品の開発、「日本農業遺産」の認定を追い風にしたブランド力の強化など、産業としての魅力を高めながら、農家所得の向上を目指してまいります。

観光分野では、「世界遺産」「世界かんがい施設遺産」「日本遺産」「日本農業遺産」の4つの遺産を最大限に活用し、観光客の「通過型」から「滞在型」への転換を図ってまいります。

さらに、新たな産業を創出するため、スマートインターチェンジの利便性を活かし、県南地域で集積が進む自動車・半導体関連産業の振興と企業誘致を積極的に行い、若者が地元で働き、安心して暮らすことができる雇用の場を創出してまいります。

2つ目は、「平泉で産み、育てる」環境の充実であります。

全国的な課題である人口減少・少子高齢化は、本町にとっても避けては通れない喫緊の課題であります。

このため、「出会いから結婚、出産、子育てまで」ライフステージに応じた切れ目のない支援をさらに充実し、誰もが安心して子どもを産み、育てることができる環境づくりを推進するとともに、子育て世代の孤立を防ぐための相談体制やコミュニティづくりも強化してまいります。

また、世界遺産登録15年の節目を契機に、本町のふるさと教育の柱である「平泉学」や、県外の同世代と交流する「ひかりプロジェクト」などの

取り組みをさらに深化させ、子どもたちの心に郷土への誇りと愛着をはぐくみ、次代の平泉を担う人材を育成してまいります。

3つ目は、「安心と生きがいの町平泉」の実現であります。

全ての町民の健やかで穏やかな暮らしを守ることは、行政の基本的な責務であります。

このため、暮らしの安全・安心の基盤となる安全で快適な道路交通環境の整備、とりわけ国道4号の4車線化や長島地区の県道一関北上線の改良整備の着実な推進にむけて、国や県と緊密に連携し、一日も早い完成を目指してまいります。

また、年代やライフステージに応じたきめ細やかな健康づくりを推進し、健康寿命の延伸を図るとともに、高齢者の皆さまが長年培ってこられた知識や経験を地域で活かせる場、そして若者や女性をはじめ、あらゆる世代が生きがいを見つけ、協働のまちづくりに主体的に参画できる機会を創出してまいります。

4つ目は、「みんなに選ばれる町平泉」の確立であります。

町の活力を維持・向上させるため、特に若い世代がこの町を選び、安心して働き、暮らせる環境をつくることが重要であります。

このため、「仕事」と「住まい」の環境整備を進めるとともに、U I Jターンに対する支援を充実させ、町への定着を促進してまいります。

また、「ふるさと住民」登録制度などを最大限に活用し、平泉を応援し、繰り返し訪れてくれる「平泉ファン」を獲得するとともに、「スパルタキャンプ」などを通じた関係人口の創出と拡大を図ってまいります。

さらに、「地域おこし協力隊」や「集落支援員」をはじめとする国の制度を活用し、新たな活力やアイデアを町にもたらす人材を受け入れることによって、町の新たな活力を生み出してまいります。

終わりに、平泉は今年、世界遺産登録15周年、中尊寺落慶供養900年の節目の年を迎えています。平泉の持つ歴史と文化を再認識し、この地で暮らす幸せを感じているところであります。

一方で、我が国では加速度的な人口減少社会の到来や、DXに代表される社会構造の大きな変革期を迎えており、平泉町もまた、この時代の大きな転換点に立っております。

このような状況の中、「輝きつむぐ理想郷」の実現は、決して平坦な道ではないかもしれませんが、町民の皆さまの声に真摯に耳を傾け、この正念場を「オール平泉」で乗り越えるべく、その先頭に立って全力で取り組む決意であります。

町と町民が一体となり、共に考え、共に行動することで、平泉の輝かしい未来を切り拓いてまいりましょう。

以上、今後の町政運営の基本について申し述べました。

議員各位のご理解とご協力、町民の皆さまの町政への参画を心からお願い申し上げます。

令和8年9月8日

平泉町長 青 木 幸 保